

企画展示 館内では、当財団の研究活動の紹介や、テーマごとに蔵書を紹介する企画展示を行っています。ご来館いただいた際に、ぜひご覧ください。

エントランスギャラリー 1F

■世界の観光統計(2019年7月~9月)

観光の正確な実態把握のために欠かせない観光統計をテーマに、2018年に開催された「第15回 観光統計国際フォーラム」の様相を、当財団の研究発表内容とともにご紹介します。



展示ウォール B1F

■当財団専門委員が選んだ「わたしの一冊」
■旅の図書館40年のあゆみ

ガーデンラウンジ 1F

■「JAPAN」コーナー

窓際の書棚に、海外各国の日本紹介ガイドブックや外国人から見た日本の魅力紹介図書などを揃えコーナーを充実しました。

■継続展示中!

■旅の図書館
オススメの一冊
■「一度は読みたい
観光研究書&実務書100冊」
■「旅心を誘う、
旅の本のレジェンド30選」

貴重書ギャラリー 1F

■日本の観光に寄与した
外国人Ⅱ(2019年7月~9月)

前期に引き続き、明治から昭和戦前期にかけて日本で活躍し日本の観光に寄与した外国人の功績を古書とともにご紹介します。今回は女性旅行家イザベラ・バード、近代ツーリズムの父トーマス・クックをはじめ、外交、日本研究、建築などの分野から6人を取り上げます。



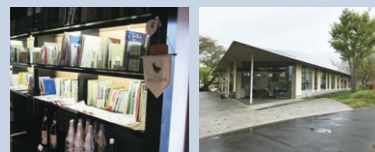
新企画

一度は訪ねたいライブラリー

このコーナーでは、当館が取材した図書館の中から、観光地の魅力づくりに寄与している各地の図書館や観光に役立つ図書館などを紹介します。



開放的な館内



まちじゅう図書館の
取り組み
(「穀平みそ」店内)

図書館外観

小布施町立図書館「まちとしょテラス」 長野県上高井郡小布施町

「栗と葛飾と花のまち」として有名な長野県小布施町。駅のホームに降り立つと、聞こえてきたのは、町外からやってきたと思われる家族の会話であり、「図書館に行ってみよう」という子供の声でした。その図書館が、駅にほど近い町役場隣に2009(平成21)年にオープンした小布施町立図書館「まちとしょテラス」です。

「まちとしょテラス」は、公募で決まった館長のもと町民が作った図書館であるという点で、昨今の複合化・大型化が進む都市部の公共図書館とは一線を画す、地方の小さな自治体の町のスケールに合った公共図書館です。一方で館内は、さえぎる壁のないワンフロアの洗練されたデザインで、開放感がありとても居心地の良い空間とな

っています。

「交流と創造を楽しむ、文化の拠点」というコンセプトにあるように、運営理念には町内外の人との交流が意識されています。館内では、観光客と思いき人が大きな荷物を横に置き本を読みながらくつろいで姿も見かけられます。また、お店や一般のお宅のちょっとしたスペースに、仕事に關係する本やオーナーの趣味の本などを置く「まちじゅう図書館」の取り組みには、町内の銀行や老舗、飲食店、個人など現在17カ所が参加しており、本を介した訪れる人と町民との交流が、町あるきの楽しみをいっそう高めてくれます。

本と図書館にも、小布施らしいまちづくりの思想が息づいていました。

Information

「観光文化243号」では「観光と図書館」を取り上げます!

今や魅力ある図書館は、「住みたいまち」の重要な要素であり、地域の再生・活性化に欠かせない存在として注目されています。では、観光地にとって図書館はどのような役割を果たしているのでしょうか?機関誌「観光文化243号」(9月下旬発刊予定)では、「観光と図書館」が特集テーマです。ぜひご期待ください。

「みちのく潮風トレイル」を歩こう!

2019年6月9日(日)、東北太平洋沿岸 約1,000kmをつなぐ道「みちのく潮風トレイル」が全線開通しました。この道は青森・岩手・宮城・福島沿岸地域をつなぐ、歩くための道です。道を歩けば、その土地の自然と暮らしに出会い、震災の記憶に触れ、地域の人たちとのふれあいがうまれます。旅の図書館では、全区間のトレイルマップを所蔵しています。この夏は、自分の足で東北を味わってはいかがですか?



たびとしょ

— 旅の図書館 News Letter —

Vol. 8
2019年7月号



「旅の図書館」TOPICS

当館の直近の様子をトピックスとしてお伝えします。

Check

ビジネス支援図書館推進協議会 「第8回情報ナビゲーター交流会」が当館で開催されました！

近年の図書館は、図書の閲覧・貸出を主とした従来の機能にとどまらず、地域課題の解決や地域の活性化など多様な役割が期待されており、ビジネス支援もその一つです。

2019年5月25日(土)13時より、ビジネス支援図書館推進協議会(全国の公共図書館でビジネスを支援するサービスを通して地域経済の発展に寄与することを目的として設立された非営利組織)の「情報ナビゲーター交流会」が当館のライブラリーホールを会場に開催されました(主催は同推進協議会及び(一財)機械振興協会経済研究所)。

この交流会は全国のビジネス支援に取り組む公共図書館の研修の場であると同時に、日常接点の少ない専門図書館との交流を促すことを目的に年1回開催されているもので、8回目となる今回の開催テーマは「図書館を魅せる」。全国から100名を超える公共図書館、専門図書館の関係者が集い、2つのテーマ講演や図書館のミニプレゼン大会などが活発に行われました(当館も発表しました)。

なお、交流会に先立ち、当館の見学会も実施し、約20名の方にご参加いただきました。



交流会風景

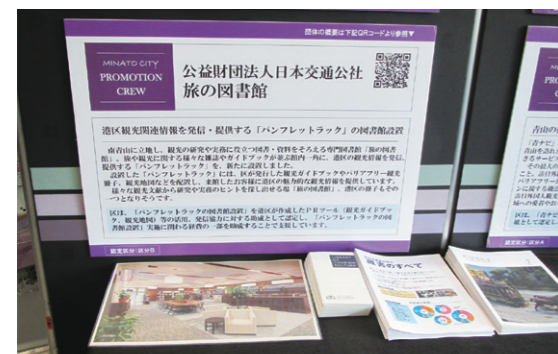


館内の見学会

MINATOシティプロモーションクルー認定 事業に今年も継続して取り組んでいます

港区では2017年度より、区の観光魅力の発信に取り組む事業者を「MINATOシティプロモーションクルー」に認定しており、現在12の団体・個人が認定を受けています。当館も初年度から参加しており、館内1階には港区専用の観光パンフレットラックを設置しています。

5/17~6/3の期間は区役所1階で各クルーの取り組みの展示が行われ、初日の5/17にはクルー認定事業者の交流会が開催されました。これからも、熱意ある他のクルーとも連携しながら、観光スポットの多い区の観光魅力の発信に取り組んでまいります。



港区役所1階に設置されたクルー認定事業者の取組紹介ブース

海外の旅行雑誌の購読を始めました

2019年度より海外の主要な旅行雑誌3誌の購読を始めました。いずれも美しい写真がふんだんに掲載され、旅の魅力にあふれた人気の雑誌ばかりです。日本の旅行雑誌とはひと味違うトラベル&レジャーマガジンを眺めて、海外の余暇・レジャーを取り巻く環境や文化の違いを感じてください。



【購読雑誌】
「CONDE NAST TRAVELER」(アメリカ)
「TRAVEL & LEISURE」(アメリカ)
「THE SUNDAY TIMESTRAVEL MAGAZINE」(イギリス)

旅の図書館オススメの一冊！

最近刊行された図書の中から当館のおすすめをご紹介します！



1 観光学全集 第8巻 観光計画論2 事例に学ぶ

野倉淳 編著 原書房 2019年6月 A5判 204頁

各地の観光計画に関わった実務者らが、計画の策定、方策、実施、評価等を事例ごとに解説。先に刊行されたシリーズ第7巻観光計画論1のベースとなった具体事例編でありセットで読みたい。

2 世界の都市 5大陸30都市の年輪型都市形成史

平本一雄 著 彰国社 2019年4月 B5判 216頁

都市や建築の空間、都市の政策や経営、都市の文化・歴史などを研究しようとする者の基礎的知識の書。ヨーロッパ・南北アメリカ・アフリカ・オセアニア・アジアの30都市を対象に、都市形成の多様さを具体的に解説。

3 観光地経営の視点と実践

公益財団法人日本交通公社 編著 丸善出版 2019年4月 B5判 268頁

市場環境が著しく変化している中で、観光地全体をどうマネジメントしていけばよいのか。観光の実践的学術研究機関である公益財団法人日本交通公社(当財団)研究員による新たな視点と事例を加えた2013年版の改訂版。

4 観光の事典

白坂蕃・稲垣勉・小沢健市・古賀学・山下晋二 編 朝倉書店 2019年4月 A5判 464頁

観光研究の第一線で活躍する研究者らによる観光学の総合事典。観光の基本用語から経済・制度・実践・文化まで197項目を網羅。単なる用語解説にとどまらず、観光の基礎が理解でき実務にも役立つ。

5 「市」に立つ 定期市の民俗誌

山本志乃 著 創元社 2019年4月 四六判 304頁

丹念なフィールドワークにより、市に集まる人びとの人生、土地のあり方が鮮やかに描き出される。市は決して古いものではなく、現代をしながら生きるためのヒントが詰まっている。

6 ワールド・トレイルズ 世界は歩いてみたい「道」にあふれている

ゲシュタルテン 編集 グラフィック社 2019年4月 B5変形判 256頁

地球上には自然と人間が創りあげてきた多くの道がある。迫力ある写真の数々と印象的な文章とによって、世界各地のトレイルの魅力や存在を十分に表現する。道の多様さと奥深さに驚かされる。

7 国際観光旅客税と観光政策

盛山正仁 著 創英社・三省堂書店 2019年3月 A5判 402頁

本年1月から運用が開始された「国際観光旅客税」には、早くも各方面から大きな期待が寄せられている。新税創設の背景、目的、基本方針などの解説に加えて、我が国の観光の現状と課題も丁寧に解説する。

8 観光亡国論

アレックス・カー、清野由美 著 中央公論新社 2019年3月 新書判 224頁

日本の観光に鋭い視線を注いできた東洋文化研究家の最新著書。決して観光の否定ではない。日本が真の観光立国となるために正面から向き合ねばならない問題への提起の書である。

9 環境人間学と地域 ユネスコエコパーク —地域の実践が育てる自然保護—

松田裕之・佐藤哲・湯本貴和 編著 京都大学学術出版会 2019年3月 A5判 366頁

ユネスコエコパークは世界遺産と何が違うのか?単なる自然の保全ではなく、人間の生きた生活の上に成り立つ自然保護を目指すユネスコエコパークの制度的特徴と実践事例を紹介。

10 地域おこし協力隊 10年の挑戦

椎川忍、小田切徳美、佐藤啓太郎、地域活性化センター、移住・交流推進機構 編著 農山漁村文化協会 2019年2月 四六判 344頁

制度導入から10年。様々なキャリアをもちそれぞれの生き方を探す若者と地域との出会いが、関わる人と地域を変えていく。地域おこし協力隊の制度の効果と今後の方向性にも言及。